クラウド時代のセキュリティについて考える（ゼロトラスト）

2022年現在、多くの企業でテレワークが浸透し、あらゆる場所から安全に仕事ができる環境が求められています。

安全な環境を確保するための参考になるのが、新たなセキュリティモデル「ゼロトラスト」です。

この記事ではそんなゼロトラストについて詳しく解説するので、社内のセキュリティに携わる方々はぜひ参考にしてみてください。

ゼロトラストについて

ゼロトラストはゼロトラストモデル、ゼロトラストネットワークなどと呼ばれるセキュリティ課題に対する新たなソリューションです。

ゼロトラストについて解説する上で、従来のセキュリティモデルである境界防御モデルについて触れておきます。

これは社内ネットワークを利用することを前提とした考え方で、インターネットなど社外のネットワークは信用できないから境界をファイアウォールなどで防御しようというものです。

2022年現在も多くのセキュリティ製品は、境界防御モデルの考え方に沿ったものです。

近年はクラウドサービスやテレワークの普及により、社外から社内のネットワークにアクセスする機会が増えています。

これにはDX推進も背景にありますが、いずれにせよ「クラウドシフト」の波は止まりそうにありません。

ただ、クラウドシフトが進むにつれ、企業の情報漏えいなどセキュリティ関連の問題が急増しました。

上記のような背景も相まって、セキュリティに対する考え方が見直されています。

そこで従来どおり社外からのアクセスを疑うことのみならず、内部のネットワークに関しても信用できないとされ、ゼロトラストが世に浸透しました。

クラウド上での安全性を担保

セキュリティについて考える上で、不正アクセスのリスク軽減は外せない項目です。

このリスクを軽減するために、ゼロトラストの考え方が役に立ちます。

どこからのアクセスも信用せずにチェックすることで、チェック体制に漏れがなくなります。

当社が提供するSeciossLink（セシオスリンク）では、安全性を担保しつつ本人認証もクラウドで完結するので余計な手間もかかりません。

IDパスワードのログインに限らず、生体認証や顔認証などにも対応しています。

ネットワークやシステムへのアクセス制御は、IDとパスワードで行われるのが一般的ですが、その安全性は各々の管理体制にも依存します。

仮に管理に問題があれば、サイバー攻撃によりIDやパスワードが漏洩してしまう危険性もあるでしょう。

そのため、ユーザー認証のみならずデバイスやアプリケーションごとのセキュリティの状態、正当性を識別した上でアクセス制御を行います。

今でこそクラウドが主流ですが、当社はオンプレミスでサービスを提供してきた歴史と実績があり、国内企業の事情にも明るい。海外製のセキュリティ関連サービスが多い中、日本製のSeciossLink（セシオスリンク）は多くの国内企業様に安心してお使いいただいています。

企業様ごとに最適なご提案も可能ですので、セキュリティについてお悩みの方々は、ぜひ一度お問い合わせください。

アクセス権をクラウド上で一元管理

ゼロトラストの概念が誕生する前は、攻撃の種類やネットワークに応じたセキュリティ機器が用意されていたので、管理コストが増えるというデメリットがありました。

しかし、ゼロトラストの考え方に基づきクラウド上で一元管理が実現することで管理コストを大幅に削減することに成功しました。

SeciossLink（セシオスリンク）もゼロトラストの考え方に沿っており、アクセス権をクラウド上で一元管理することができます。離れた場所でも同一のセキュリティポリシーを適用できるので、リモートワークにも最適でしょう。

ただ、ゼロトラストセキュリティにおいてもID管理に関しては厳重であるべきです。特に業務上必要なツールが増えるにつれ、管理するIDの数も増加するので尚更です。

そこでいかにIDの管理を楽にするかが、セキュリティネットワーク構築のポイントになってきます。管理するIDが多い場合には、SSO（シングルサインオン）の機能が有効です。

シングルサインオン（SSO）を活用すれば、ユーザに必要なのはひとつのIDとひとつのパスワードだけで済みます。

SeciossLink（セシオスリンク）にもシングルサインオンが導入されているので、ID管理、パスワード管理でお悩みの方はぜひご検討ください。

オンプレミスで培った知識を集約したシステム

企業がオンプレミスで運用しているシステムの中にも、クラウドへ移行しやすいシステムと、そうではないものがありますが、このあたりはシステムへの知見がないと、判断がつかないこともあるでしょう。

当社では、オンプレミスでサービスを提供していた経験を活かし、お客様ごとに最適な提案が可能です。

まずはシステムを分類し、そのシステムをクラウドへ移行すべきかという問題から向き合います。

たとえばシステムごとに、以下のような項目に沿ってその特徴を洗い出します。

- システムの使用用途は？
- 更新頻度は？
- 将来的な利用の有無は？

企業ごとのネットワーク環境を考慮した上で、SeciossLink（セシオスリンク）の導入が必要か、必要であればどのような形で役立つのかまで、じっくりご説明させていただきますのでご安心ください。

クラウド化が進んでいるとはいえ、セキュリティの問題を考えてオンプレミスを活用せざるを得ないケースも多いと思いますが、そんな企業のご担当者様の要望にお答えするために、オンプレミスとクラウドを両立できるサポートをさせていただきます。

まとめ

ゼロトラストモデルでは、ネットワークセキュリティのみならずアクセス元のPCまでセキュリティチェックを行います。その上でアクセスコントロールや多要素認証などのプロセスに入るので、より厳重な管理体制が構築できます。

さらにサービスの利用状況も常に監視下にあるので、脅威が可視化されやすいのも特徴です。

SeciossLink（セシオスリンク）では、いつもとは違う端末からのログインや、距離的に不可能なアクセスなど、何か脅威を見つけた際にアラートで検知することができます。

2022年現在、セキュリティにおける最適なソリューションといえるゼロトラストに興味をお持ちの方は、ぜひ気軽にお問い合わせください。

次回はセキュリティに関する重要なワード「SASE」について紹介するので、乞うご期待ください。